

2323

續
近
世
畸
人
傳
五



續近世所人傳卷之五

英一蝶

いけハ多賀待野安伝はほりて西とまび待野伝を
名号ハ後師の母と云ハ多賀長洲ト云ハ後

又英一城

花顛ハモの如と云ふ。それとも因^レ里^ニし^テ家
中^ノ此^ノ情^ヲと^ルくも何^カなり。又世^ニ親^シム

修ふ流されて年としはあつた。竹花ふ疎乃ちまりと。西風一家の
 又秋分の時。秋風の船乗りしふとれより英一疎と改めともこり

類と云ふ、鹿骨極のよく性暖骨よりぬる仕へる

者なり。一旦及び遠處に流されたりと画と毎う

賜りて衣食の料ふ充^ちは救ふちひてゆりてそ西^しん

すむりて或^ル時^ニ又^モ國^ノを石^ノ城^ニと争ひてゐる

きこえおしぶやぐと走り^{いそ}てぬ^ぬ多^た乃^の今^{いま}と^とて^てあ^あぶ

ふかし狹ふな穴内ようしる。おもわきと愛者

[illegible]

時代は遠く^{わい げん} 名は變字^な、其^き 腹^{はら} 号^{ごう} の 緒^{いと} に、さう
 俗名^{ひな} とつて、熊^{くま} 變^{へん} ともいふ。肥前^{へいぜん} 寺^{てら} の 釋^{しやく} 官^{くわん}
 あり、為人^{にん} 膽^{たん} 氣^き あり、使^し 者^{しや} へ、人^{にん} 沈^{しん} 南^{なん} 嶺^{りやう}、西^{せい} と
 言^い び、さへ名^な もし。一^{いつ} 時^{とき}、金^{かね} とあり、虎^こ と西^{せい} へん。
 わしも、變^{へん} 人^{にん} 虎^こ とおもひ、く。中^{ちゆう} 第^{だい} と變^{へん} へ、膚^{はだ} の 怪^{かい}
 ちうへ、みちうに、虎^こ 張^{ちやう} り、頭^{かぶ} と筆^{ふで} ぞ、けし、けし
 き、ふんや、あふ、あふ、まぢ、まぢ、けし、けし、虎^こ とさ
 ふ、やうに、氣^き と揚^{はう} ぐん、人^{にん} 皆^{みな}、人^{にん} 懼^{おそ} り、さう
 去^き、あふ、り、人^{にん} あふ、り、るに、變^{へん} 獨^{どく} 自^{みづか} り、て、そ、さ、と
 う、さう、そ、逆^{さか} り、る、人^{にん} 口^{くち}、く、席^{せき} 江^え と、揚^{はう}、は、そ、服^{ふく} の
 う、さう、あふ、さう、あふ、人^{にん} を、追^お う、あ、やうに、あ、げ、え、て

齊之朝のちひさし韓山一所に宿る。宿るに或る時、
侍るにわかれし西の一年人なり。去年の夏、
岡田子松、韓山寺碑、北魏人温子昇作也。使信云、韓山一所、
唯可共修、而不可修。唯可共修、而不可修。唯可共修、而不可修。
○我々永田氏、忠不、信年。一、号、上、卑。又、
道く、い、い、い、腐と、
一、寺、
吾、
忍、
お、
も、
わ、
と、
人、

人、

君、
長、
注、
不、
剛、
胃、
逝、
始、
奴、
一、
之、
黄、

[illegible]

うりて罪人の指くへてさうりてしたるものなり。
て能く希代なり。此は西人の所為なり。此は
てもさうなり。華教の教とていふは、昔の
聖とて今二書と獨り

子規類 には、たけしめも、さうりてしたるものなり。
釋教 には、たけしめも、さうりてしたるものなり。
并ハ、たけしめも、さうりてしたるものなり。

宮津集

丹波の山に、たけしめも、さうりてしたるものなり。
小島使の、たけしめも、さうりてしたるものなり。
しるしに、たけしめも、さうりてしたるものなり。
のりて、たけしめも、さうりてしたるものなり。

いふて、たけしめも、さうりてしたるものなり。
いふて、たけしめも、さうりてしたるものなり。
られ、たけしめも、さうりてしたるものなり。
財とて、たけしめも、さうりてしたるものなり。
蒲団と。小島使の、たけしめも、さうりてしたるものなり。
ト、たけしめも、さうりてしたるものなり。
たけしめも、さうりてしたるものなり。
に、たけしめも、さうりてしたるものなり。
を、たけしめも、さうりてしたるものなり。
の、たけしめも、さうりてしたるものなり。
たけしめも、さうりてしたるものなり。
り。いふて、たけしめも、さうりてしたるものなり。

それば。多くもやうに。おひ。まゐりに人々を。およびし。
おん。と。も。り。ち。か。き。れ。ど。あ。つ。め。い。く。ん。ち。か。き。れ。ど
ふ。た。の。や。ち。か。き。れ。ど。あ。つ。め。い。く。ん。ち。か。き。れ。ど
と。も。り。ち。か。き。れ。ど。あ。つ。め。い。く。ん。ち。か。き。れ。ど
お。ん。と。も。り。ち。か。き。れ。ど。あ。つ。め。い。く。ん。ち。か。き。れ。ど
ふ。た。の。や。ち。か。き。れ。ど。あ。つ。め。い。く。ん。ち。か。き。れ。ど

宇野體泉

體れい永えい字し即し母はは名なえ章あき字あき成なり憲けん通と名なををななすす也なり
 己おのれ身み山やま澤さわのの人ひとままややりりままととぬぬまま情なさけ開ひら通と地ち
 ろろららのの静しずをを作つくるる一ひと旦とつみみととみみななみみひひてていいららぶぶ
 旦とつ書かのの類るいみみ昂かうととままひひくく一ひと画え一ひと毛けいいずずももそそにに

[illegible]

俗情

右予

右依_テ

子

酒室にちやいさるやうに氣象さうじ。そは東
 を挟む。むりも青林は飯にのほども。九女はな
 酒さうに解し。或人妻をあるては解さう。
 みも一病さう時女抱乃人のまはさうものさうさ
 り。五とあひて吾病さうい。も一飯さ病さう
 とたの吾骨さうい。やうさうに。いさるさう
 たり。さう。惜さう。四十とあるさう。さうさう。
 一井人さうに。さう。さう。わが。い。の。人。は。我。と
 い。さう。さう。家。を。廻。り。

建陵

暖窓の建ち成るはれも。建乃てまゝともしう。げん
柳の葉とさる所。浅竹のふとね。雷林のふとね。

[illegible]

一画といふ量となつてはと初よりくつゝもども片方の

粵
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

芥川貞佐

貞佐の備中守に罷り出づるに、人々のまゝでなく
 河をくぐりて、馬久早津に到りて舟をかり。ゆより瑞
 雲にんとせし甚親敬されども、心そ奥秘と極んも
 しべざるなりしも吾師のたのむる人とはさうぞ
 一冊はそなへ有題とあく事記して他日のまじ
 たる傳へられとも食養と名づく。それの中は要紙
 奉ふ。弱冠にしてふ酒えよふ親交し表裏利
 片信の端ときく。まさ平家にもうて蹴鞠とぞい
 紫下濃と免ふやふ。四條家はほろけい程鶴乃
 虎々々と傳へ。我々のまゝりては食養の式帳とぞ。

も食の獲をもちていづの業をなせしむるに
 ついでにふりかへていづの業をなせしむるに
 していづの業をなせしむるに
 有法とていづの業をなせしむるに
 とていづの業をなせしむるに

金中首事よりいづる

血をいづるにいづるに

きつていづるにいづるに

木下長清

きつていづるにいづるに
 校中務候。一止。其後とて。政所殿の御。依見の誠
 によりていづるにいづるに

手續。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに
 手続。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに
 手続。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに

手続。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに
 手続。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに
 手続。いづるにいづるに。依見の誠とて。きつていづるに



こころにありてる人ありてはねもさされて。た
 りに國のよみおるべし。ききよ九條相國道廣云
 とけりまて月々や多き。やびそ國名のく
 凡流のらるるまきおるまき。うふいふも
 うらぶとてあふはさくわね。そふらと
 ちねは 是定永十七年

ころのちねはさくわね。そふらと
 ちねは 是定永十七年

萬葉集。改所殿くれらのはやし。表のまて
 ちねは。改所殿。ちねは。表のまて。ちねは。
 仕乃志と離れ。隠棲と今。ちねは。ちねは。

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise.

[illegible]

み→おとと遠きところへ。ゆゑに。此稿と
編みのなり。

華一願もぐ遠慮うれぐれも。今果の親
しよくて志と違ひしむにけむに記とぐし。
そのれもみ稿を刪補し。いさう掛軸のこふ
搬すもの。被さうふあふる寛政八辰のたふ。

老樵閑田子蒿溪

續田人代

10

10

1

お編をふみぢえて得る。あゝの法も何れも活けずふらんを
たぬ氏の小藤へ。早の酉水おろして。人の関つてねえ
ふ氏と流し。又そと程く飛へ。後る。そく一服の酌の
と辞し。受じや。記さる。非人。人のほし。もた
が絶つ。つゝまじ。ていふ。ね。困る。ゆ。は。も。う。そ。ん
の。ち。は。後。り。一。切。も。な。く。う。う。い。ま。正。く。急。難。ふ。際。
絶。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
彼。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
私。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
近。思。縁。と。ん。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
義。は。ゆ。め。と。同。然。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は

あゝ。ば。君。の。裁。如。新。人

才四冊 北村祐庵

お侍は著せし。あゝ。味。を。う。天。社。よ。り。一。願。さ。者
ふ。は。り。也。れ。も。そ。ん。や。家。高。く。さ。も。無。欲。る。が
う。ま。る。強。も。う。う。後。と。流。の。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
長。宅。田。園。は。む。も。う。村。中。に。流。り。も。う。生。活。費。用
い。ん。の。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は
け。ん。乃。志。辰。幸。回。お。乃。追。福。の。村。中。より。振。り。う。う。所。為
お。ん。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は

才五冊 少山友松

お編の御い。み。人。の。割。つ。つ。然。も。方。さ。る。れ。が。富。々。人。
家。乃。藥。謝。は。ゆ。め。と。同。然。と。ま。さ。つ。ひ。も。な。な。や。ね。で。お。今。を。さ。り。そ。ん。は

子平小讀白遊子詩二首あり

秋興招吾湖白水

嵐光踏破訪幽踪

山村籬外一枝菊

石徑再遶十里松

洞戶不厭遊客扣

岩_一扃_只有_二懶_一雲_封

遠來爲同山居好

冷露未晞^{未乾}鳴州蛩

又

美^ミ肴^ユ幾^キ時^ジ隱^{イン}清^{セイ}時

獨倚石屏借晚曦

一丁徑菴餘菟跡

半肩薪棘對仙基

市裏三月本下別

洞裏景光稍似遲

除却山中松柏翠

秋風搖落更無私

後又白函より自筆の條々を數人乃至數人と。借出さ
んきわづ。そまにうつしてたゞ掲ぐ。そ等類もまた同様し

謹志箴

白幽子

夫長於雲壑青松下

無有游觀廣覽之知

顧有至愚孤陋之累

晏然哀吾生之須臾

平日好讀書不求甚
 解窺聖賢之道不慕
 榮利安貧不蔽風日
 一褐一瓢屢空不憂
 今日而俟天命而已

又其墓と仰し人操得たり。真の書のかきめ
 らしき。方々に刻し

表 松風窟白幽子之墓

横 白川山居隱士

時 寶永六己丑初秋二十五日

のれいそく人乃實有の悔なり。升苞も人々み難ふこと
 をも巧みなり。さうふれいぶしき。白隱和尚の
 清もつら唐寅四月をうらふ編は筆さぐしに墓
 碣いふ年己丑。まじなひの日に建しむるつら
 けれど。ニよりいふはそ殺日なり。さういふあり。
 早急隱士のおとまり。又山乃師へ。壽二るま
 もさういふ。仙のさういふ。其示託を
 秘ふで。さういふ。さういふ。や。月の空に
 深のさういふ。さういふ。は難なり。たす

續近世畸人傳
續近世畸人傳

田子深之

續近世畸人傳卷五大尾

筆耕 田春好

寛政十年戊午孟春刊行

林 伊兵衛

鷗鷯惣四郎

藤井孫兵衛

野田儀兵衛

西田莊兵衛

長村太助

平安書肆

近世畸人傳拾遺

追刻